

若い世代へ広報誌の訴求力を高めるには

栃木県塩谷町
塩谷町役場 企画調整課 広報担当 風見 達也
担当教員 佐藤 栄治

23班 コミュニティデザイン学科 内田桃美 薄井遼河
建築都市デザイン学科 榎本飛央 増川友康
社会基盤デザイン学科 門川菜摘

背景・調査～塩谷町ってどんなところ？～

塩谷町について

- ・人口…総人口10448人
- ・年少人口割合 9.2% 老年人口割合 38.6%
この先**人口は減少していく**ことが予想。
- ・小学校が3校、中学校が1校。高校はない。

広報「シオヤ」について

- ・地元根差した広報誌。お知らせカレンダー、健康・福祉の広場、まちのわだい、スポーツニュースなどを掲載。
- ・広報「シオヤ」の課題は以下の通り。
①**若者の読者が少ない**→若者に向けた記事が少ない
②**情報発信が一方的**→読者の声や投稿が少ない

目的～町内から出ていく若者を減らしたい～

- ・中学生が興味を持つような広報誌を提案
↓
- ・広報誌を読んでもらう
↓
- ・塩谷町について知ってもらう
↓
- ・就職・進学で出ていったとしても戻ってきてもらえる町に

方法～分析方法～

①広報誌の比較

- ・まずは広報誌を知る
- ・読まれる広報誌とは？
- ・「シオヤ」との違いは？



②実際に中学生に聞いてみる

- ・「シオヤ」の認知度は？
- ・どんな広報誌なら読む？
- ・自分たちで作るってどう思う？



③実際に記事を作ってみる

- ・塩谷に感じたこと
- ・アンケート結果
- ・どうやったら読む？



④記事はどうだった？

- ・記事のフィードバック

分析結果①～広報誌の比較～

若者によく読まれている「広報みよし」と比較

広報誌の比較



左：広報みよし 右：広報誌シオヤ



上：広報みよし 下：広報誌シオヤ

広報みよし

- ・写真がカラーで見やすい
- ・全体的にカラフルで目につく
- ・ページによってレイアウトが異なるためどのページを見ても面白い
- ・前半に住民にとって身近な話題、後半に行政・福祉などの話題

広報シオヤ

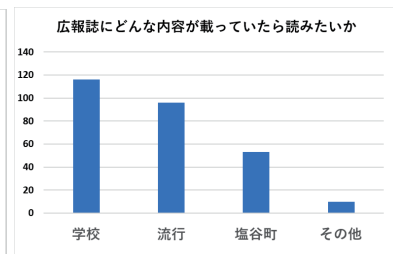
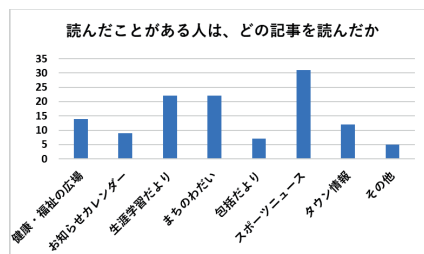
- ・写真は載っているがモノクロで少し見にくい
- ・ページのレイアウトや色味が全体的に似ているため面白みに欠ける
- ・前半に行政・福祉などの話題、住民にとって身近な話題

分析結果②～アンケート調査～

アンケートの分析結果(対象：塩谷中学校学生222人)

< 第一回アンケートから >

- ◆ 広報しおやを知っているか
知っている→**42%**
- ◆ 自分の関わった記事が載っていたらうれしいと思うか
嬉しいと思う→**70%**
- ◆ 広報誌の記事を作ってみたいと思うか
思う→**11%**



提案～若者に見て貰える広報誌にするため～

これからの広報誌は

- ・地域住民に、自治体の**情報を発信**
- ・**地域住民の声**を集める
- ・行政と住民・企業などを**繋げる**
- ・若者の**興味を惹く**広報誌

これからの記事に関する提案

- ・写真だけでも**カラー印刷**
(特に地域住民の移っている写真)
- ・記事の**順番の変更**
(前半に住民にとって身近な話題、後半に行政・福祉などの話題)
- ・地域住民と**一緒に作り上げる**広報誌
(中学生が記事の一部を作成)
- ・記事の**オンライン化**
(・広報誌の始めのページにQRコードを載せ、そこから記事の内容を簡略化した記事、若者が欲する内容を記載する
・イベントの記事にはQRコードを読み込むことでホームページにアクセスできるようにする)

来年度の活動案

- ・今年度作成した記事のフィードバックアンケート調査を元に**記事の内容案**を考える
- ・記事を**オンラインで読む方法**について地域パートナーと話し合う
- ・来年度、大学生、地域パートナー、記事作成に興味のある中学生が**ワークショップ**を行い、**実際に記事を作成**する。(2回実施)
- ・1回目～広報誌の読み方を知る
- ・2回目～実際に広報誌を作成する

分析結果③～実際に記事を作成～

実際に記事に関するアンケート調査した、発表までに間に合いませんでした、、、
分析結果④